

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2024.10.31 No.71

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目 次

・ 森本美乃里「第137回研究会「参加記」」	1
・ 柳啓明「2024年度東日本部会総会「参加記」」	3
・ 高橋康「第138回研究会「参加記」」	5
・ 全国大学史資料協議会東日本部会2024年度全国総会議事録	7
・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	11
・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	14

2024年3月14日（木）第137回研究会

第137回研究会「参加記」

女子美術大学歴史資料室 森本美乃里

第137回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は、2024年3月14日（木）、大東文化大学板橋キャンパスにて開催された。同大学の経済学部教授で大東文化歴史資料館館長を務める中村宗悦氏と特任准教授の浅沼薫奈氏より「大東文化大学における百年史編纂事業について」と題した講演が行われた。講演終了後に質疑応答、その後2グループに分かれて大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）展示室、図書館の見学が行われた。講演開始前にまず、100周年記念事業推進室事務長である小紫智弘氏からの挨拶があった。

講演の前半では、百年史編纂事業の立ち上

げについて、そこに至るまでの道のりと実際に編纂を行うにあたってのご苦労、編集方針について中村氏からお話いただいた。2003年に理事であった寺崎昌男東京大学名誉教授がアーカイブスと自校史教育の必要性を強調下さったことにより百年史編纂事業が立ち上がった。立ち上げについて、大東文化歴史資料館規程第3条を中心に説明いただいた。ニューズレターなどで定期的に報告をすることで、学内での認知度の上昇、教職員からの資料提供や情報提供に繋げる重要性を話された。また、自校史教育を担っており、創立90周年を機に刊行されたブックレットは全学共通科目のテキストとしても使用し、学生

にとって手にとりやすいものとなっている。
事務職員の新人教育等においても活用され
好評とのことだった。



具体的な百年史の詳細が決まらない中、2011年に中村氏が学部長、理事となり、大学執行部に働きかけたことで2015年4月に百年史編纂委員会が発足した。批判に耐える年史をつくり、大学の発展へと繋げることで、部局の発展史だけにならぬよう「読んでもらえる校史」を目指したという。編纂委員会の動きとして、デジタル化を主としつつ紙媒体での保存も行うことを重要なことと挙げており、さらに中村氏が委員長として各事務部局の説得に力を入れたことを話されていた。

講演の後半では執筆された浅沼氏から資料のテキスト化から本文執筆と校正、上巻完成作業についてお話いただいた。ニューズレターで随時報告を行い、構成は編年体である50年史をベースにすることとした。未掲載だった資料や知見、評価を記し、読み切れるものにする 것을 目指し、さらに通史と資料を一冊の中におさめるというチャレンジを行った。テキスト化作業の中で、公文書資料による事実関係の確認を行ったところ、誤っている部分があるというより、抜けているこ

とが多い印象だったという。

調査を進める中、神田校舎について新たに
分かったことを地図や図を用いて説明があり、
設立申請や学生総数、開校に至った経緯
など、今までの解釈と実は違ったことの発見
は大変興味深いものだった。

上巻を刊行する上で、「読みやすいもの」であることを第一に、新資料・受領資料を積極的に利用してみんなで作る沿革史という認識を持ち、現代的視点から各時代を解釈し、公平性を意識することを心がけたという。

最後に中村氏から 2025 年に下巻を刊行する上での今後の課題が 3 点挙げられた。第一に人的サポートの充実である。先生方がご執筆されたものを、校閲・チェックする作業が大切で、新鮮な目を持ち違う角度から批判的な目で読める人材が必要である。第二に業者とのコミュニケーションの継続については、年史編纂の長期でのやり取りの中、継続的な関係性が大切である。第三に下巻の付録についてである。本文より時間を要するため早期に取り掛かる必要があるとのことだった。

今回お二人の講演を聞き、読んでもらうこと・みんなで作り上げる年史という考えが強く印象に残った。積極的・継続的な働きかけ



により、学生・教員・職員をはじめとした多くの方々に徐々にでも認知していただくことが大学の年史編纂で協力を得るための必要不

可欠な取り組みであると感じた。今回の講演で学んだことを本学の年史編纂の中で生かしたい。

2024年6月4日（火）2024年度東日本部会総会

2024年度東日本部会総会「参加記」

早稲田大学歴史館東伏見アーカイブズ 柳啓明

2024年6月4日、中央大学多摩キャンパスのグローバル館において、東日本部会総会が開催された。その後、記念講演会および今年度オープンした法と正義の資料館・大学史資料館の見学会が行われ、中央大学の歴史とそれを発信する新たな取り組みについて見識を深める機会を得た。

「多摩キャンパス（以下、多摩キャン）」と聞くと私は同志意識と張り合いの感情が織り交ざって湧いてくる。というのは、私も多摩キャンの出身だからである。法政大学の学部・大学院時代を町田市・八王子市・相模原市の境界に位置するキャンパスで過ごし、今も八王子市に住んでいる。「上京する前の方が都会に住んでいた」とは大学の垣根を超えた地方都市出身多摩キャン生の合言葉だと思うが、私も例にもれず、福岡市からムササビが飛ぶ自然豊かな丘陵地帯を東京の入り口とした。私にとって多摩キャンはそうした情景が共有される場所であり、中央大は地続きの「隣の芝」のひとつである。

記念講演会は、北井辰弥大学史資料館副館長・法学部教授を講師に迎え、「中央大学の建学の精神」とのテーマで行われた。複数の私立大学が共同で出した『朝日新聞』の全面広告のリード文「私立大学の原点。それは建

学の精神にあります。」を切り口にして、中央大学における建学の精神の変遷について研究の成果が報告された。

報告によれば、現在の建学の精神とされる「実地応用ノ素ヲ養フ」は、1885年7月の『朝野新聞付録』『郵便報知新聞付録』においてみられる。しかし、1938年の学長による入学式訓示では「質実剛健」「自主的の信念」「家族的情味」が掲げられ影をひそめた。ところが戦後、1969年の『法曹百年史』では「実地応用ノ素ヲ養フ」が再発見される形で、設立趣旨として強調されている。神話的な一貫性を持つかに見える建学の精神も、時代状況のなかで変化してきた歴史が明らかにされる。フロアからの質疑でも指摘されたように、なぜこの再発見が1960年代から70年代にかけてなされたのか、多摩への移転が進む時期と重なるため興味深い。





見学会が行われた法と正義の資料館・大学史資料館は、もともと「炎の塔」があった場所に設置されている。「炎の塔」とは、法曹を目指す法学部生が勉学に打ち込むための施設である。学部時代、私は弁論部に所属し、中央大の弁論部である辞達学会の後輩とも親交があり、彼がここを利用するための試験を突破したものの、他にやりたいことがあるので辞退したと話していたことを思い出す（結局、卒業後しばらくして弁護士になった）。言わば「法科の中央」の登竜門であるが、法学部が茗荷谷キャンパスに移転したことで、大学の歴史を伝える施設としてリノベーションされた。

大学史資料館には、駿河台時代の遺物で再現された教室、多摩キャンパス移転当時のイベントのパンフレットや写真、辞達学会や駅伝部など学生団体や部活動の資料などが展示され、創立から現在の「二大キャンパス体制」への歴史を知ることができる。法と正義の資

料館では、「法とは正しいルールのこと」「その正しさは正義に由来」との観点に立つ常設展で、法と正義の歴史を学ぶことができる。第1回企画展示「医学者証言を覆せ 弁護士松波淳一の闘い」では、被害者の立場で公害裁判を闘った法学部夜間部出身の松波淳一氏の生涯が、イタイイタイ病対策協議会の横断幕や同氏の書斎の遺品などから振り返られている。自校史にとどまらず、普遍的な価値観と実社会におけるその実現の在り方を探求する構成が印象的である。また、展示解説のスタッフが複数名おり、「炎の塔」時代に学生用クローゼットとして使用されたスペースがディスプレイに改築されたことや、展示を通じた学習の現状など、パネルだけでは分からない歴史を知ることができた。

「隣の芝」とははじめに述べたが、これだけ多摩の大学の大学史の取り組みについて学んだのは、出身校の「芝」を含めて初めてではないかと思われる。キャンパス機能の分散として多摩キャンが作られた出身校と比較すると、中央大は中核機能を含めた移転によるものであり、ゆえに大学の歴史を伝える機能が多摩に存在するなど違いは大きい。郊外におけるキャンパス運営の歴史的な厚みが増す一方で、大学の都心回帰が進むいま、中央大学が多摩を拠点に、自らの歴史を普遍的な価値の探求とともに再発見してゆく取り組みは、大学の価値をその土地の特性に照らしながら、歴史的に問い直す可能性を持つのではないだろうか。

2024年7月23日（火）第138回研究会

第138回研究会「参加記」

学校法人聖路加国際大学法人資料編纂室 高橋康

2024年7月23日、第138回全国大学史資料協議会東日本部会研究会が明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント2階4021教室にて開催された。

以下、時系列で当日の報告及び簡単に感想を述べたい。

研究会当日、会場入り口付近では、参加される皆様が、にこやかに談笑されていた。初参加の私たち（上司と筆者）は、会場の最後尾に目立たぬよう席を確保し、配布資料「NHKドラマガイド虎に翼 Part I より、女性法律家のさきがけ三淵嘉子の履歴書」に目を通した。すぐに会場は60人程の参加者で埋まり、東日本部会会長、日本大学 松原太郎様の開会のご挨拶に引き続き、明治大学史資料センター所長、明治大学法学部教授 村上一博先生による「NHK連続テレビ小説「虎に翼」と三淵嘉子」の講演が始まった。村上先生は900名もの学生達に講義をなさるほどの人気が高い教授であり、物腰も柔らかいお話は、名古屋市市政資料館（昭和54年まで裁判所として使用）での撮影の裏話や、ドラマのエピソードのもととなった帝人事件、チフス餓死事件、河合栄次郎事件についてのご解説やドラマでは、多少の脚色はあるものの、主人公が、建学の精神をもって努力し日本初の女性弁護士となり、成長し社会進出をしていく姿は、そのままであると話された。続いて、常盤御前判決についてお話をと思わ

れた時点で15時となり、講演会は一旦終了となった。

その後、アカデミーコモン地下1階特別展示室に場所を移した。そこは、まさにミュージアムと呼ぶにふさわしい場で、法服の試着コーナーなどに目を奪われた。間もなく、明治大学史資料センター古俣達郎氏による展示案内が始まった。ブース内は二つに区分けられており、まずは、本年3月から10月まで開催されている一般財団法人NHK財団主催の連続テレビ小説「虎に翼」展からの案内となった。主人公の猪爪寅子と同級生の轟太一の衣装や使用された小道具の展示、人気俳優の等身大パネル等があり、撮影スポットにもなっている。ドラマの世界に入り込んだ気分になり、思いのほか来館者が多いという話もうなずける。続いて「女性法曹養成機関のパイオニア 明治大学法学部と女子部」展は、



明治大学史資料センター主催であり、ドラマの背景となったリアルな歴史展示の説明となった。明治大学ご出身で女性初としてご活躍されている方々は、弁護士や判事、行政官、計理士、税理士、裁判官、裁判所長と多数いらっしゃるとのこと。1929年の明治大学専門部女子部の開校式で、横田英雄学長は、「女子の為に高等の教育を施しその学識を涵養し、その智見を開発し、女子をして学問上に於てその天分を発揮することを得せしむるが為に、学問の研究に関して均等の機会を与へる（中略）男尊女卑の旧習を打破し、女子の人格を尊重し、その法律上、社会上の地位を改善して之を向上せしむる」と述べられている。また、1930年当時のカリキュラムを見ても、最新かつ高度な法学を学ぶ機会が得られ、その後も学科名称の変更や定員増など改革を進め、1931年には女子部本科卒業後に明治大学法学部への入学が認められた。これは、国家試験受験資格が得られたことであり、明治大学が、女性の社会的地位向上を目指すための、よりよい環境を常に整え続けていたためといえる。その他、1940年当時の弁護士用法服を再現したものや受験票などをケース越しに拝見し、爽やかで誠実さを感じさせ



る古俣氏の解説は終了された。

展示内容を冊子にしたパンフレットには、明治大学史資料センターのホームページへ繋がるQRコードが掲載されており、村上先生のコラムを拝読することもでき、三淵嘉子さんが執筆した論文も目にすることができる。非常に興味深く、有益であることも納得できる。アンケートに答えると、記念品をいただけるのも嬉しい。その他、「三淵嘉子さんが学んだ千代田区マップ」という神田・お茶の水・神保町の名所や老舗店などの紹介や、「2館巡りスタンプラリー 甘柑荘×明治大学博物館」の案内を目にした。製作者に「明治大学博物館学生広報アンバサダー」とある。2021年より活動する博物館の広報活動を学生目線で担う団体とのこと。ウェブサイト上での紹介やデジタルを活用した情報発信は若者が情報を得やすい（あくまで私見ですが）。一方で、「明治大学博物館友の会」という、博物館職員と歴史や文化を広く学ぶ会、社会人の生涯学習や公開講座などの学びの会も1978年より設立されている。こちらは、ハガキや封書、eメールでの連絡が可能で、会報が発行されている。だれでもいつでも、博物館に繋がることができる。こちらの博物館は「考古部門」「商品部門」「刑事部門」と3つの部門から成り立ち、展示物も多く、他の博物館では見られない品や重要文化財もあり、ファンはますます増えることであろう。

研究会へ初参加し、公開された情報や資料に刺激を受け、楽しく興味の幅が広がり、また訪問したくなった。博物館の意義を改めて確認できた大変すばらしい機会であった。感謝。

全国大学史資料協議会東日本部会

2024年度総会議事録

日 時 2024 年 6 月 4 日 (火)
14:30 ~ 17:00
会 場 中央大学多摩キャンパス・グローバル館 7 階ホール (GG701)
出席会員 機関会員 29 校、個人会員 9 名

〔部会総会の成立〕

* 現会員と出欠状況

	総計	出席	欠席届
機関会員	67	29	18
個人会員	38	9	8
総 計	105	38	26

* 総会定足数は、機関会員 67、個人会員 38 の総計 105 の過半数 53 である。

* 部会規約第 11 条第 5 項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数 (38) と欠席届提出会員数 (36) の合計は 64 となり、部会総会は成立した。

〔配布資料〕

1. 総会次第
2. 2024 年度総会参加者一覧
3. 2023 年度事業報告書
4. 2023 年度収支決算書
5. 2023 年度貸借対照表・監査結果
6. 2024 年度事業計画書 (案)
7. 2024 年度収支予算書 (案)
8. 東日本部会会員名簿

開会の挨拶 石井七海氏 (立教学院)
議長選出 議長 長谷川倫子氏 (明星学苑)
副議長 北口由望氏 (法政大学)

議 事

- (1) 2024 ~ 2025 年度 全国大学史資料協議会東日本部会役員

- ・事務局 (明治大学) より報告があり、満場一致で承認された。
- (2) 2023 年度事業報告・同決算報告について
 - ・事務局 (明治大学) および会計校 (東海大学) より報告があり、満場一致で承認された。
- (3) 2023 年度監査報告について
 - ・監査委員 (古俣達郎氏) より決算が適正であった旨の報告があり、満場一致で承認された。
- (4) 2024 年度事業計画案・同予算案について
 - ・事務局 (明治大学) および会計校 (東海大学) より報告があり、満場一致で承認された。

閉会の挨拶 松原太郎氏 (日本大学)
記念講演 北井辰弥氏 (中央大学大学史資料館副館長・法学部教授)
演 題 「中央大学の建学の精神」
見 学 会 法と正義の資料館・大学史資料館

〔概要〕

2024 年度東日本部会総会は、中央大学多摩キャンパス・グローバル館 7 階ホールにて開催された。記念講演では、北井辰弥氏 (中央大学大学史資料館副館長・中央大学法学部教授) より「中央大学の建学の精神」と題した講演を頂いた。中央大学の建学の精神及び、校風が、時代ごとに変化してきたことを明治期の学報等に基づいて紹介された。それらを踏まえて、建学の精神は国の政策などに対応して変化や再発見されてきたことに、自覚的である必要があることを強調し、講演は締めくくられた。

講演後、2024 年 4 月 1 日オープンした「法と正義の資料館」「大学史資料館」の見学会が実施された。2 つの資料館の設立の経緯について説明の後、2 組に分かれて展示を見学した。展示内容や展示手法についての質疑が闊達に行われた。 (帝京大学 堀越峰之)

全国大学史資料協議会東日本部会

2023年度収支決算書

2023年4月1日～2024年3月31日

収 入				(単位:円)
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
会費収入	1,575,000	1,515,000	60,000	
法人等会員	1,360,000	1,340,000	20,000	66機関分(他延滞1口含む)×20,000円(※2機関滞納)
個人会員	215,000	175,000	40,000	35名分×5,000円(他延滞2口含む)(※個人会員5名[8口分]滞納)
利息収入	1,000	68	932	
預貯金利息	1,000	68	932	預金利息
参加費収入	0	170,000	△ 170,000	
部会総会参加費	0	0	0	※2023年度(明治大学)は参加費徴収せず
全国総会参加費	0	170,000	△ 170,000	34名×5,000円(10月4日～6日 立命館大学)
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合 計	1,576,000	1,685,068	△ 109,068	

支 出				(単位:円)
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
運営費支出	80,000	106,386	△ 26,386	
総会費	20,000	0	20,000	
幹事会費	40,000	39,930	70	Zoomアカウント年間契約料
部会研究会費	20,000	66,456	△ 46,456	定例研究会の会場使用料及び謝礼
謝礼支出	80,000	44,548	35,452	
講師謝礼等	80,000	44,548	35,452	講演謝金(2名分)、同源泉所得税
消耗品費支出	10,000	0	10,000	
消耗品費	10,000	0	10,000	
印刷費支出	400,000	206,195	193,805	
印刷費	400,000	206,195	193,805	会報印刷費(No.69・No.70)、協議会通信用封筒増刷
通信費支出	180,000	252,353	△ 72,353	
事務連絡費	180,000	252,353	△ 72,353	会員連絡費、会報発送費(No.69・No.70分)、通信物切手料金等
手数料支出	10,000	4,455	5,545	
手数料等	10,000	4,455	5,545	金融機関送金手数料他
参加費支出	0	244,091	△ 244,091	
総会参加費	0	244,091	△ 244,091	2023年度総会・全国研究会経費等
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	550,000	255,278	294,722	
出版事業	250,000	187,973	62,027	研究叢書23号(※西日本分担金85,443円)
その他	0	0	0	
ホームページ事業	300,000	67,305	232,695	ウェブサイト更新料等(※西日本分担金35,915円)
ホームページ 改善積立金	0	0	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合 計	1,360,000	1,113,306	246,694	

当年度収支差額	216,000	571,762	—	
前年度繰越収支差額	6,587,295	6,587,295	—	
翌年度繰越収支差額	6,803,295	7,159,057	—	

2023年度貸借対照表

2024年3月31日

資 産		(単位:円)		
項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
ホームページ改善積立金	600,000	600,000	0	
三井住友銀行	600,000	600,000	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	7,109,398	6,570,888	538,510	
三井住友銀行	7,109,398	6,570,888	538,510	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	49,659	16,407	33,252	
事務局校	0	0	0	
会計校	49,659	16,407	33,252	帝京大学
合 計	7,759,057	7,187,295	571,762	

負債・収支差額		(単位:円)		
項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	600,000	600,000	0	
ホームページ改善引当金	600,000	600,000	0	
収支差額	7,159,057	6,587,295	571,762	
収支差額	7,159,057	6,587,295	571,762	
合 計	7,759,057	7,187,295	571,762	

2024年 4 月 1 日

上記の通り報告します。

会計委員 帝京大学 堀越 峰之 印

東海大学 椿田 卓士 印

2024年 4 月 16 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 國學院大學 渡邊 卓 印

個人会員 古俣 達郎 印

全国大学史資料協議会東日本部会
2024年度収支予算書（案）
2024年4月1日～2025年3月31日

収 入				(単位:円)
項 目	2024年度予算	2023年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,650,000	1,585,000	△ 65,000	
法人会員	1,420,000	1,360,000	△ 60,000	69機関 @20,000円 + 昨年度滞納2口分
個人会員	230,000	225,000	△ 5,000	38名 @5,000円 + 昨年度滞納8口分
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	250,000	0	△ 250,000	
部会総会参加費	0	0	0	40名 @0円(2024年度は中央大学) ※2023年度は対面開催
全国総会参加費	250,000	0	△ 250,000	50名 @5,000円(2024年度は早稲田大学) ※2023年度は対面開催
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合 計	1,901,000	1,586,000	△ 315,000	

支 出				(単位:円)
項 目	2024年度予算	2023年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	160,000	80,000	△ 80,000	
総会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料、資料作成費、他開催経費
幹事会費	40,000	40,000	0	Zoomライセンス契約料、会場費・設備使用料他
部会研究会費	100,000	20,000	△ 80,000	会場費・入場料・飲料代他
謝礼支出	80,000	80,000	0	
講師謝礼等	80,000	80,000	0	講演料・原稿料・源泉税・課税交通費他
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	400,000	0	
印刷費支出	400,000	400,000	0	会報印刷費(No.71およびNo.72 年2回分) 他
通信費支出	180,000	180,000	0	
事務連絡費	180,000	180,000	0	会員連絡費、会報送料(No.71およびNo.72 年2回分)
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	300,000	0	△ 300,000	
総会参加費	300,000	0	△ 300,000	会場費・設備使用料、資料作成費、他開催経費
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	550,000	550,000	0	
出版事業	250,000	250,000	0	叢書24号印刷費(西日本部会担当)、その他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	300,000	300,000	0	サーバ証明発行費・サイト更新費等維持管理金、その他
ホームページ改善積立金	0	0	0	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時経費
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	1,740,000	1,360,000	△ 380,000	

当年度収支差額	161,000	226,000	—	
前年度繰越収支差額	1,089,436	863,436	—	
翌年度繰越収支差額	1,250,436	1,089,436	—	

全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

第 219 回全国大学史資料協議会東日本部
会幹事会議事録

日 時 2024 年 3 月 14 日 (木)

13:00 ~ 13:30

会 場 大東文化大学板橋キャンパス
(〒175-8571 板橋区高島平1-9-1)
3 号館 1 階 30111 教室

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳
大学 専修大学 大東文化大学
帝京大学 東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学 立
教学院

議 題

- (1) 2024 年度東日本部会総会について
・事務局(専修大学)から、2024 年
6 月 4 日(火)に中央大学多摩キャン
パスを会場として開催するとの
報告があった。
- (2) 全国研究会・ウェブシステム・研
究叢書の経費按分について
・東海大学から、資料 1 に基づき報
告があった。
- (3) 役員改選について
・次のとおり決定した。
会長: 日本大学、副会長: 立教学院、
会計: 帝京大学・東海大学、監査:
國學院大學・檜皮瑞樹、叢書・会報:
大東文化大学・武蔵野美術大学、

ウェブシステム: 神奈川大学・日
本大学、運営委員: 淑徳大学
事務局: 専修大学・明治大学

(4) 2024 年度研究テーマについて

- ・年間テーマを「地域の歴史・記憶
と大学史資料」、全国研究会のテー
マを「年史編纂の現在」(仮)とす
ることを申し合わせた。

(5) その他

第 220 回全国大学史資料協議会東日本部
会幹事会議事録

日 時 2024 年 4 月 25 日 (木)

15:00 ~ 16:00

会 場 中央大学多摩キャンパス 1 号館
1408 会議室

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳
大学 専修大学 帝京大学 東
海大学 日本大学 武蔵野美術
大学 明治大学 立教学院 檜
皮瑞樹
オブザーバー参加 中央大学

議 題

- (1) 幹事会に先立ち、部会総会の会場
となるグローバル館 7 階ホールの
位置・設備等を確認した。
- (2) 東日本部会総会(於中央大学多摩 C)
について
・タイムスケジュール、役割分担、
総会資料等について、事務局(専
修大学・明治大学)、帝京大学から

報告があり、内容を確認した。

(3) 全国研究会の報告者について

- ・「年史編纂の現在」(仮)にふさわしい報告者について引き続き検討することとした。

(4) 第35回アート・ドキュメンテーション学会年次大会の後援について

- ・事務局(明治大学)から報告があり、これを承認した。

(5) 跡見学園女子大学の退会について

- ・事務局(明治大学)から報告があった。

(6) 担当者等の変更について

- ・事務局から、大妻女子大学、関東学院、相模女子大学、中央大学、明治学院、立教大学、立正大学の会員情報変更について報告があった。

(7) 7月研究会について

- ・帝京大学から進捗等について報告があった。

(8) 幹事会終了後、法と正義の資料館および大学史資料館を見学した。

第221回全国大学史資料協議会東日本部
会幹事会議事録

日 時 2024年6月4日(火)

12:30～13:00

会 場 中央大学多摩キャンパス・グローバル館7階ホール(GG71)

出 席 神奈川大学 淑徳大学 専修大学

大東文化大学 帝京大学 東海大学 日本大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教大学 檜皮瑞樹

議 題

(1) 全国大学史資料協議会東日本部会について

- ・会場校である中央大学側の担当者も交えて当日の役割分担、進行ほかの確認を行った。

(2) 全国研究会(1～2日目早稲田大学。3日目の選定)・同報告者について

- ・事務局および檜皮瑞樹氏より進捗状況の報告があった。また、報告者および見学先についてはいくつか候補が出され、基本的には事務局に一任することで合意を得た。

(3) 7月研究会について

- ・明治大学より進捗情報の報告があった。

(4) Zoom アカウントについて

- ・継続することが決定された。

(5) 会員情報の変更について

- ・神奈川大学、中央大学、東京経済大学、東京女子大学、東京電機大学、東京農業大学、名古屋市立大学、林慎一郎氏の会員情報変更についての報告があった。

(6) その他

- ・帝京大学より12月の研究会について、12月5日に東京学芸大学で開

催される旨の報告があった。

第 222 回全国大学史資料協議会東日本部
会幹事会議事録

日 時 2024 年 8 月 1 日 (木)

14:00～

形 式 Zoom による WEB 会議

出 席 神奈川大学 國學院大學 専修
大学 東海大学 日本大学 武
蔵野美術大学 明治大学 立教
学院 檜皮瑞樹

早稲田大学歴史館(オブザーバー参加)

議 題

(1) 東日本部会総会の総括

- ・会計校である東海大学より参加人数の確認および参加者への年会費の振込書配付済との報告があった。

(2) 2024 年度全国研究会について

- ・担当校である事務局および檜皮瑞樹氏により当日の記録係・スケジュール、人員配置などについての説明を行い、参加いただいた早稲田大学歴史館から都度、補足・確認があった。なお、報告者の一人・戸邊氏(東京経済大学)より事前報告会開催の有無の問い合わせがあった件については、事前報告会は行わないが、研究会開催一ヶ月前に簡単な内容をまとめたペーパー(A4・1枚程度)を提出してもらうこと、事務局にレジュメが

到着次第、各報告者に送付することと同意を得た。

(3) 会報および叢書の編集について

- ・担当校である大東文化大学が欠席のため、次回の幹事会で検討することとなった。

(4) 12 月研究会について

- ・担当である帝京大学が欠席したため、事務局から研究会の簡単な概要を説明した。なお、記録担当者の檜皮瑞樹氏が当日参加できないとのことで、担当者の変更を行うこととなった。

(5) その他

- ・ホームページの改修について
担当である日本大学より説明があった。
- ・会員の入退会について
- ・会員情報の変更について
上記 2 点については事務局より説明があった。
- ・今後の幹事会・研究会について
次回の幹事会は、全国研究会の詳細な確認のため、参加希望者締切後の 9 月 26 日(木)に Zoom 形式で開催することと同意を得た。

第 223 回全国大学史資料協議会東日本部
会幹事会議事録

日 時 2024 年 9 月 26 日 (木)

14:00～15:00

形 式 Zoom による WEB 会議

出 席 神奈川大学 淑徳大学 専修大学
大東文化大学 東海大学 帝京
大学 日本大学 武蔵野美術大
学 明治大学 立教学院
早稲田大学歴史館(オブザーバー参加)

議 題

(1) 2024 年度総会・全国研究会・見学
会について

- ・事務局より記録係および当日のス
ケジュールの確認のほか、見学会
の参加者が制限内に収まった旨な
どの説明が行われた。また情報交
換会の費用、参加費の徴収につい
てもいつかの確認がなされた。

(2) 第 140 回研究会について

- ・担当校である帝京大学から研究会
の詳細について説明がなされた。

(3) 会報および叢書の編集について

- ・担当校である大東文化大学より、
会報の進捗状況に関する報告がな
された。また、今年度の総会・全
国研究会・見学会の参加記など執
筆者への依頼などに関して協力要
請がなされた。

(4) その他

- ・研究叢書の支払について
会計担当校の東海大学より、今年
度の研究叢書の支払い方法に関す
る変更点についての説明がなされ
た。

- ・会員情報の変更について

早稲田大学歴史館の名簿へ 1 名追
加の旨、事務局より説明を行った。

- ・2025 年度東日本部会総会の会場に
ついて

会場として青山学院大学の内諾を
得た旨、事務局より説明を行った。

- ・今後の研究会について

事務局より今後の研究会見学先候
補として、来年開館する「霞会館
記念学習院ミュージアム」などを
挙げた。

全国大学史資料協議会東日本部会 研究会記録

第 137 回全国大学史資料協議会東日本部
会研究会記録

日 時 2024 年 3 月 14 日 (木)

14:00 ~ 16:00

会 場 大東文化大学板橋キャンパス
3 号館 1 階 30111 教室

(住所) 東京都板橋区高島平 1-9-1

出 席 お茶の水女子大学 学習院大学
神奈川大学 関東学院大学 慶
應義塾大学 國學院大學 相模
女子大学 淑徳大学 女子美術
大学 専修大学 多摩美術大学
東海大学 東洋大学 日本女子
大学 日本大学 武蔵野美術大
学 明治大学 立教大学 早稲
田大学 谷嶋美和乃 檜皮瑞樹

村松玄太

司 会 浅沼薫奈氏（大東文化歴史資料館）

講 演 「大東文化大学における百年史編纂事業について」中村宗悦氏（大東文化歴史資料館館長）・浅沼薫奈氏

質疑応答

見学会 大東文化歴史資料館第 27 回企画展「入学試験の 100 年史 ―大東文化の学生募集―」、大東文化大学図書館ほか

〔概要〕

本研究会は、大東文化大学板橋キャンパスを会場に開催された。大東文化大学百周年事業推進室事務長小紫智弘氏から同校百周年事業についての説明の後、中村・浅沼両氏より「大東文化大学における百年史編纂事業について」と題した講演をいただいた。まず中村氏からは大東文化大学百年史編纂事業の起ち上げから編纂方針の策定など、事業の骨組みに係る部分を説明いただいた。次に、浅沼氏からは編纂の内容に係る具体的な話を報告いただいた。同校百年史編纂は、従来の年史の構成を踏襲しつつ、新しい資料・知見・評価を示し、読んでもらえる校史を目指すという方針のもと進められている。2023 年に刊行された『大東文化大学百年史』上巻の制作過程からは、上記の方針のもと、様々な試みがおこなわれて

いたことが明らかにされた。最後に、中・下巻刊行に向けての展望・課題を以て講演は締め括られた。講演後は、質疑応答の後、大東文化歴史資料館と合わせて 100 周年記念モニュメント、大学図書館の見学会が実施された。

（立教学院 石井七海）

第 138 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日 時 2024 年 7 月 23 日（火）

14：00～16：00

会 場 明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント 2 階 4021 教室（住所）東京都千代田区神田駿河台 2-1

出 席 お茶の水女子大学 学習院大学 神奈川大学 関東学院大学 相模女子大学 自由学園 淑徳大学 女子美術大学 聖路加国際大学 専修大学 大東文化大学 拓殖大学 玉川大学 多摩美術大学 帝京大学 東海大学 東京経済大学 東洋大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治学院大学 明治大学 明星学苑 立教大学 早稲田大学 谷嶋美和乃 林慎一郎 檜皮瑞樹 古郡信幸 村松玄太 山田兼一郎 下間大輔

司 会 古俣達郎氏（明治大学史資料セ

ンター)

講演 「NHK 連続テレビ小説『虎に翼』と三淵嘉子」村上一博氏（明治大学史資料センター所長、明治大学法学部教授）

質疑応答

見学会 明治大学博物館「『虎に翼』展及び『女性法曹養成機関のパイオニア—明治大学法学部と女子部』展」、常設展、「女性法曹養成機関のパイオニア」展関連動画の視聴ほか

〔概要〕

第138回研究会は明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催された。村上一博教授（明治大学史資料センター所長）による「NHK 連続テレビ小説『虎に翼』と三淵嘉子」と題した講演が行われ、同作における戦前期法律考証を担当することとなった経緯、作中で使用された裁判事例についての解説を受けた。「リーガルエンターテインメント」を目指す同作は、前提として憲法14条「すべて国民は、法の下に平等」を主テーマとしている。撮影前に明治憲法における家制度では当然のように「女性は無能力者」と位置づけられたことをスタッフおよび出演者に講義したところ、それが最大の衝撃として受けとめられたと解説した。作中でもその衝撃が描かれており、主人公が接する判例も女性の権利に関連する事件が多く

なっている。史実をアレンジしつつ、歴史上の興味深い判例を参考に物語が展開されているとのことであった。研究会後半では明治大学内で開催されている「『虎に翼』展」及び「女性法曹養成機関のパイオニア—明治大学法学部と女子部」展を古俣達郎氏（明治大学史資料センター）の案内で見学し、散会となった。

（大東文化大学 浅沼薫奈）

ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【明治大学史資料センター】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL：03 (3296) 4448

MAIL：history@meiji.ac.jp

【専修大学大学史資料室】

〒102-8275

東京都千代田区神田神保町3-8

TEL：03 (3265) 5879

MAIL：archives@acc.senshu-u.ac.jp

会報編集

【大東文化大学 大東文化歴史資料館】

〒175-0083

東京都板橋区徳丸2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL：03 (5399) 7646